

平成29年度家庭教育応援プロジェクト 古殿中学校親子の学び応援講座

○期 日 平成29年12月2日(土)
○場 所 古殿町立古殿中学校体育館

古殿町立古殿中学校 教育講演会

講 師 聖心女子大学非常勤講師 榎本 竜二 氏

演 題 「ネット時代を生きるこどもたち」

参加者 古殿小・中学校保護者77名
古殿中学校教職員10名
ブロック会議推進委員3名
事務局3名



【プログラムの実際】

今回は、地域家庭教育県中ブロック会議で域内の家庭教育推進上の課題の一つととらえた「メディアコントロール」に焦点をあて、聖心女子大学の榎本竜二先生を講師にお招きし古殿中学校の授業参観後の貴重な時間を使い講演会を開催しました。今子どもたちが置かれているネット時代の現状、便利さの陰に潜む危険、親としてしなければならないことなどについて具体的な事例を織り交ぜわかりやすく講演して頂きました。

講演後の保護者の感想からも、「親も正しい知識を身に付け、子どもたちに寄り添い支えていかなければならない」といった気付きの感想が多くあげられました。

【講演内容】

●将来の社会は誰にも予想がつかない

○子どもたちの65%は、今は存在しない職業に就く

○AIの進歩により人間の仕事は二極化する

- ・AIではできない創造性の高い仕事、AIのやり残しを埋める程度の仕事

○企業が求める人材

- ・コミュニケーション能力（対人）、チームワーク、主体的行動、チャレンジ精神に優れていること

●子どもとの約束

○理由のない「禁止」は単なる「約束」

○「罪」があっても「罰」がないのはダメ

○守っているかどうかチェックし続けること、破った時のペナルティを行使すること

○「見守り」と「放置」は違う



【大竹校長先生による講師紹介】

○保護者としてスマホを与えた責任をとる

●中毒と依存

○やめられなくなるのが「中毒」（使わないとイライラする）

○やめさせてもらえないのが「つながり依存」（使わないと相手に悪い気がする）

○「子どもを信じる」ことはよいが、「子どもの判断力」を信じてはいけない

○身近に相談相手となる大人が必要、保護者が相談相手に

●ネットでの注意点

○写真画像や書き込みには位置情報が付加される

○簡単に学校、住所が特定される

○ネットに出した情報は決して消えない

○ネットに出した個人情報は必ず特定され、拡散・悪用される

●トラブル？すぐ相談

○個人で解決できないことがほとんど

○国民生活センターなど専門機関に相談

○学校にも相談を

●保護者としてできること

○ネット・情報機器の良い点、悪い点を伝える

○「～してはダメ」から「～しよう」に

○分からないふりをして何をしているのか聞く
（教えてもらう）

○ネットに関する事件を話題にする

○大人は問題を解決できることを教える

・子どもの力では解決できないことも

・スマホに詳しくなくても対応できるのが大人

○良い報告に向けて使わせるように仕向けるのが大人の役目



【講演する榎本先生】



【真剣に講話に耳を傾ける保護者】

【講演会の感想】

・具体的でわかりやすい内容でした。使うにあたって「放置しない」方法で上手にネット社会に子どもを付き合わせていきたいと思います。

・うまく言えませんが、本当に講師のおっしゃることに共感しました。

・禁止ではなく、親子のコミュニケーションを大切に
トラブルのない使い方をしていきたいと思います。

・親も知識が必要なのだと思います。

・家庭のルールを決めなければと思いました。

・子どもを守るのは大人。難しい年頃ではありますが、
コミュニケーションはとても大事。

・家庭のルール、大人家族の責任について再確認しました。位置情報サービスの怖さについても知ることができました。

・SNSの使い方、ルール等を子どもにしっかり教えていかなければいけないと思いました。便利であるインターネットですが、情報を鵜呑みにするのではなく必要なものを必要なだけ上手く使いたいと思います。



【小平PTA会長お礼の言葉】